

ホテル業における新型コロナウイルス感染症
感染拡大予防ガイドライン（集会の用に供する部分）

初版 2020.05.25

一般社団法人沖縄県ホテル協会

ホテル業における新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドライン
(集会の用に供する部分)

2020 年 5 月 25 日

一般社団法人沖縄県ホテル協会

新型インフルエンザ等対策特別措置法第 32 条に基づく緊急事態宣言において、沖縄県は緊急事態措置を実施すべき区域の対象外となったことを受け、5 月 14 日に「沖縄県新型コロナウイルス感染症対策に係る実施方針」が策定されております。その中で、今後の取組みについて基本的な感染予防対策や、業種や施設の種別ごとの感染予防対策を盛り込んだ感染予防の為の「感染症拡大予防ガイドライン」を作成し、持続的な感染予防対策に取り組むよう示されています。

(一社) 沖縄県ホテル協会では、新型コロナウイルス感染症対策専門会議の提言の中にある「業種ごとの感染拡大予防ガイドラインに関する留意点」等を踏まえ、「ホテル・旅館(集会の用に供する部分)における新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドライン」について整理し取りまとめたところです。

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの間、本ガイドラインを活用いただき、新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のに向けた積極的な取組みを推進して頂きますようお願い申し上げます。

また、本ガイドラインは基本的な対応について例示しており、各事業者において施設の規模やサービス内容等を勘案し、各事業社の実情に合わせた対策を講じて頂きますようご案内いたします。

なお、本ガイドラインは、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況や最新の同ウイルス予防に係る専門家の知見等を踏まえて、必要な見直しを行ってまいります。

1. 本ガイドラインのポイント

各事業者におけるサービスの内容に応じて、新型コロナウイルス感染症の主な感染経路である接触感染と飛沫感染のそれぞれについて、従業員やお客様等の動線や接触等を考慮したリスク評価を行い、そのリスクに対応する取組みを行う。

2. 感染防止に向けた具体的な取組み

(1) 施設の喚起対策

➤換気設備の適切な運転・点検を実施する。

- 常時、窓（換気施設又は出入口）は2か所以上空けておく。
- 会議室、宴会場を使用した後は、1時間程度空気の入替えを行う。

（2） ホテル・旅館（集会の用に供する部分）におけるリスク評価と対応策

①接触感染リスク ※複数の者が手指などで高頻度に接触するもの

■パブリックスペース

- ・椅子やテーブル、受付台、エレベーターのボタンや、エスカレーター、階段等の手すり、電話、トイレのドアノブ、トイレトペーパーホルダー、水栓レバー、蛇口等

■会議室・宴会場内

- ・会場入り口のドアノブ、椅子やテーブル、マイク・マイクスタンド、演台、プレゼン用ポインター、座椅子、座布団、お膳、その他備品類等

- 複数の者が手指などで接触する機会の多い物の部分の消毒を定期的に行う。
- 施設側で消毒液を設置するなどし、入退館時や会場に入る際に手洗いやアルコール消毒をして頂くよう使用を促す。
- パブリックスペースの洗面所に手指を消毒するアルコール消毒液と、メッセージカード等を設置し利用を促す。
- 会場の出入口を分けるなど、人と人が対面で交差しないよう動線を分ける。

②飛沫感染リスク※特定多数の参加者による人と人との距離や、従業員との距離

■パブリックスペース

- ・エレベーター前やエスカレーター乗降口、受付時やクローク等での荷物受渡し、トイレ出入口等

■会場内

- ・会議やセミナー、講演会等の参加者同士の距離、宴席時の配席、従業員による飲食のサービス提供時等

- 人との間隔は出来るだけ開けてお並び頂くよう誘導する。
- パブリックスペースに身体的距離の確保、手洗い手指消毒、咳エチケット等の案内やピクトグラム等を掲示し来場者へ注意を促す。
- 受付やクローク等で人が対面となる場合は、アクリル板や透明ビニールカーテン等で遮蔽する。

- 席の配置については四方を空けた配置にするなど間隔を広くする。
- 会議用テーブル 1 台（長辺 180 c m）につき 1 名とし、テーブルの間隔も広くする。
- 会場の収容人数においては、仕様定員数の半分程度を目安とする。
- 円卓（180 φ）においては、定員数の半分程度の席を配置し、テーブル間隔を広くする。
- 喫煙室がある場合は、一度に入室できる定員を表示し、お客様に遵守頂くよう注意喚起を行う。
- トイレ内のハンドドライヤーは止め、ペーパータオルを設置する。
- トイレの蓋を閉めて、汚物を流すよう表示する。
- 唾液などが付着するゴミは、ビニール袋に入れて密閉した上でゴミ袋に入れる。

（宴席に関する対応）

- 着席スタイルで飲食を提供する場合は、テーブルとテーブルの間隔、一つのテーブルに着席できる人数、着席の仕方について、飛沫感染が予防できる一定の距離を保つよう工夫する。
- 食事の提供は可能な限り大皿での提供を控え、個別提供もしくはスタッフによる取り分けを行う。
- buffetスタイルの飲食を提供する場合は、お客様に手洗いと手指消毒を徹底頂くと共に、ポリグローブやニトリル手袋などを設置し、利用を案内する。また提供されている料理を保護するための措置（蓋でカバーする、サービススタッフが取り分けて提供するなど）も行う。
- 他人と共用する物品は可能な限り少なくし、箸やグラスなどを常時テーブルに設置しない。また料理用のサーバーやトング類、菜箸などはこまめに取替えを行う。

（3）従業員の感染予防対策

新型コロナウイルス感染症から従業員の健康と安全を守るため、マスク・アルコール消毒液、清掃用手袋・ゴーグルなど予防対策に必要な備品の確保・補充を行なう事が重要です。また、新型コロナウイルス感染症に関する最新の知見や自社の感染予防対策について共有し、全社で感染予防対策を実施することが必要です。

なお、バックヤードや事務所等においても、ホテルの館内と同様に感染予防対策を講じることが必要です。

- お客様と従業員の安全と公衆衛生を考慮し、接客スタッフはマスクを着用する。
- 個人でできる健康管理（手洗い、うがいの励行）の徹底。
- 通勤時には、咳エチケットやマスクの着用、対人距離の保持等について、個人でできる感染防止策をとる。
- 従業員の通用口にアルコール消毒液を設置し、手指の消毒を行ってから入館する事。
- 就業前、終業中の手洗い・うがい、消毒を徹底する。
- 始業時における健康状態の確認を行う（体温チェック・諸症状の申告）
- 感染リスクを低減するため、常に一定対人距離を保持する事。
- 体調のすぐれない従業員は、直ちに部門長などの責任者に連絡を取り、その指示に従う事。
- 家族に感染者や感染が疑われる者がいる場合は、出勤を見合わせ、最寄りの医療機関に連絡を入れ、その指示に従う事とし、会社には定期的に電話等により連絡を取る事。
- このガイドラインは、パートナー企業、納入事業社などにも説明し、準拠を求める事。

3. 主催者側への対応

主催者側へは上記感染症拡大防止ガイドラインの取組みについて説明し、感染症拡大防止への取組みへの協力要請も行う。またその他詳細対応等については個別の対策を講じる。

- 上記施設側の取組みへの理解と協力の要請を行う。
- 会議やセミナー、講演会、宴席等の参加者で感染者が出た場合の対応に備え、来場者の氏名、連絡先（電話番号、メールアドレス）を把握できるよう依頼する。
- 参加者に対し、出来るだけマスクを着用して来場するよう事前に周知依頼を行う。
- 発熱や咳、体調不良の等の症状がある方について、入場制限を行う体制を整える。

➤大声での発生、歌唱や音声等については極力控えて頂くよう、主催者側に事前に伝える。